

## 幼年消防クラブの集い

6月14日(水)、氷見消防署で市内の多くの幼稚園・保育園から年長児約200人が集まり、「幼年消防クラブの集い」が行われました。阿尾保育園の園児11名も参加しました。

放水体験やスモーク体験、消防車の装備の見学等、保育園ではできない体験に目を丸めていました。



スモーク体験

放水体験

## ヒラメの放流

7月3日(月)、阿尾浜で阿尾地区の漁業関係者と阿尾保育園の園児・保育士、及び氷見漁協や栽培漁業センターの方などが参加し、ヒラメの稚魚の放流が行われました。



## 小・中連携挨拶運動



6月20日(火)、北部中学校の生徒と海峰小学校の児童が海峰小学校の正門で一緒に挨拶運動を行いました。元気な声が響いていました。

## 県道沿いの花壇整備

6月11日(日)、「阿尾城址に集う会」の皆さんが、県道沿いの花壇に花の苗を植えました。大きく育った花を見るのが楽しみです。このような方々のお陰で阿尾地区の環境が美しく保たれているのですね。



**\* 公民館主事の独り言**

※NHK「英雄たちの選択」より引用

※映画「銀河鉄道の父」参照

**「みんなの本当の幸い」**



宮沢賢治

賢治は、「都会は豊かだが、東北は厳しい」という現実に関付き、貧困に苦しむ東北の農村を変えたいという理想に燃えた。

賢治の家は、花巻で質屋と古着商を営んでいた。母は賢治にいつも次の言葉を言っていた。「人というものは、人のために何かをしてあげるために生まれてきたのさ」盛岡高等農林学校で学んだが、家業を継ぐことを巡って父親と対立した賢治は東京へ出奔する。そこで自由な風に触れる。

しかし、結核にかかり、故郷へ帰り、花巻農学校の教師になる機会を得た。

学校では、教科書中心ではなく、子供の個性を支援する教育を目指し、自分の知識や経験を自分の言葉で教え始めた。

また、クラシックのレコードをかけたり、自作の童話や詩を読んで聞かせたりした。生きていくために必要な心の豊かさを教えようとしたのである。

そんな折、関東大震災やプロレタリア運動の台頭により反政府的な活動が取り締まられるようになった。賢治が取り組んだ学校演劇も危険思想の温床になりかねないと禁止対象になった。

「何不自由なく生活をしており、本当の農家の苦しみを知らない自分が農家の未来や本当の豊かさを教える資格はあるのか」賢治は強い葛藤の中にいた。賢治は4年4ヶ月の農学校の教師を辞職し、私塾「羅須地人協会」を設立し、土質に応じた肥料を指導するなど農村の発展に貢献しようとした。

賢治の活動を知った地元警察が賢治に取り調べを要請した。これを機会に羅須地人協会の活動は急速に弱まっていった。

そんな中、体を酷使してきた賢治は、急性肺炎のため床についた。回復の兆しを見せると土質改良のため石灰岩の粉末を売る営業マンとなった。しかし、東京で倒れ、花巻で死去した。37歳であった。

人間の価値は、長さではない。人のために何かをしたかではないだろうか。

**○ 8月の講座案内**

講座名	曜日	開設日	講師・責任者	時間	部屋
生け花 (池坊)	第1・3水曜日	2日 16日	西山栄津子	10:00～14:00	洋室
かな書道	第1・3月曜日	7日 21日	猶明 光華	13:00～	洋室
茶 道	第1・3土曜日	5日 19日	栗山 静子	8:00～	和室
学童茶道&百人一首	原則毎週木曜日	3日 10日 17日 24日 31日	栗山 静子	15:00～	和室
手 芸	第3火曜日	15日	伏木あい子	13:30～	和室
潮華会(新舞踊)	毎週土曜日	5日 12日 19日 26日	大野 朝子	19:00～	和室
潮月会(新舞踊)	毎週金曜日	4日 11日 18日 25日	大野 朝子	13:00～	和室
囲碁サロン	毎週月・水曜日	2日 7日 9日 14日 16日 21日 23日 28日 30日		13:30～	和室
フラダンス	第1・3月曜日	7日 21日	東軒みさ子	19:00～	和室
常磐会書道教室	第2・4土曜日	12日 26日	名苗くみ子	10:00～	洋室

**○阿尾公民館からのお知らせ**

8月の「ふれあいランチ」は、ありません。

**○おらっちゃん風土記(地名編)**

**「森寺」という地名の由来**

森は単なる樹林の場所を指すのではなく、神社のある木立、つまり鎮守の森を指す。

地元にはその昔、当地のジョウケイジ(浄慶寺)が地蔵谷に密教系の寺院があったが火災に遭い廃寺になったという伝承が残っている。森寺の地名は、おそらくこの廃寺に因るものであろう。

また、伝承によると上日寺の33体の石仏を寄進したのは元森寺城主、長沢筑前守光国が森寺ジョウケイジ地蔵谷にあったものを移したという。

今の浄土真宗西念寺は、寛永19年に吉滝から移転したのだから、村名とは無関係であろう。

※「氷見市地名考」 児島清文著(氷見報知新聞社発行)

※「氷見市地名の研究」 中葉博文著(日本地名学研究所発行)



森寺城の石垣



上日寺の石仏